

服装が人の印象決める?

京都御池中生



正しい服の着こなしなどを学ぶ生徒たち
(京都市中京区・京都御池中)

正しい着こなし服育学

住民も参加 討論やクイズも

身だしなみから社会人としてのマナーを学ぶ「服育」の授業が七日、京都市中京区の京都御池中で行われた。地域住民やPTA代表を交えたパネル討論やクイズを通して、生徒たちが正しい服装について学んだ。

卒業を控えた三年生百三十人に、服の着こなし方やマナーを学んでもらおうと、同中が、学生服などを手がける繊維商社「チクマ」(大阪市)などと協力して開いた。パネル討論では、生徒や保護者、地域住民の各代表ら五人が、ズボンやスカートの下にジャーシーをはいた女子生徒の写真を見ながら「足が短く見えるし、かわいくない」「制服は学校のシンボル。不快感を与えてはいけない」など制服の着こなし方について議論。

続いて、シャツやネクタイなど服装に関する三択クイズを行い、時や場所、場合に応じた着こなしについて知識を深めた。

授業を受けた上坂唯梨花さん(五)は「服装が人の印象を決める大切な要素ということが分かった。身だしなみを整えて、好感が持たれるようにしたい」と話していた。

産 経 報 聞

平成17年(2005年)2月8日 火曜日

服装の社会ルール学ぼう

中京区の京都御池中

服装のマナーを通じて社会のルールを学ぶ授業が七日、京都市中京区の市立京都御池中学校であり、三年生約百三十人が、父母や地域の代表、卒業生らとともにパネル討論やクイズに挑んだ。

パネル討論やクイズに挑戦

授業は、個性の表現が強いなかで、社会人としての最低限の服装のルールを身につけるのが目的。「服装について考える社会人になる前に知っておきたい事」と題し、学年合同で総合学習の二時間を使った。

パネル討論では、繊維商社の女性社員(三)が司会を務め、三年の女子生徒一人と四人の学外者がパネリストになった。同校の標準服とふだん着の目的や着る場の違いなどについて話しあった。



服装のマナーについて話す中学生(京都市立京都御池中)

クイズでは、Yシャツのボタンに合わせる意義を学ぶ。すそが丸いわけや男性のジャケットの三つボタンはど

潮川貴之さん(五)は「場所を考えると服を選ぶ必要を感じた」と、納得した。TPO(時・場所・場) によろしかった。